

諏訪・岡谷地方の経済概況速報

平成17年12月

(平成17年11月末調査)

平成17年12月15日

長野県岡谷市郷田二丁目1番8号

**諏訪信用金庫
経営相談室**

電話 0266(23)4567(代)

FAX 0266(23)8044

		実 数	前年同期比
有効求人倍率 【10月】	諏訪公共職業安定所管内	1.24 倍	0.12 ポイント
	岡谷公共職業安定所管内	1.32 倍	0.01 ポイント
手形交換高【11月】 (諏訪手形交換所扱)	枚 数	13,310 枚	23.6 %
	金 額	14,818 百万円	27.2 %
うち不渡り発生状況	枚 数	7 枚	2 枚
	金 額	8,889 千円	368 千円
車庫証明取扱件数【11月】 (諏訪・岡谷家用自動車協会管内)		1,284 件	0.8 %
新設住宅着工件数 (17年4月~10月) (諏訪地方事務所管内)		1,400 件	13.4 %

概 況

地域の製造業

輸送用機械、産業機械関連企業は引き続き高水準の生産を続け半導体関連部品の受注も幾分増加している。クリスマス商戦向け製品の部品出荷が一段落した携帯電話部品など一部下請企業に受注が減少している企業が見られるが全体として受注は幾分回復している。

自動車関連下請企業の受注状況は概ね安定しており受注が幾分増加した企業が多くみられる。自動車関連外注企業には原材料の値上がりや受注単価引き下げなどの課題を抱えながらも、今後も安定した受注が続くとみる企業が多い。

産業機械関連企業の受注は増加、減少区々となっているが総じて受注は増加している。

工作機械は自動車部品加工機械など引き続き順調な生産が続いている。

地域製造業の受注は業種や企業により増加減少区々となっているが、全体としては幾分回復傾向を示している。原油高騰等の影響からコスト対応に苦慮する企業が多くみられ、地域の製造業の景況は全体として横這いとなっている。

商業

11月の諏訪地方の天候は晴天の日が多かった。中旬から下旬にかけて冬型の気圧配置となり朝夕の冷え込みがすすみ、衣料品や電気製品など季節商品に動きがみられた。

食料品はリニューアル店舗や既存店舗などの販売競争が激しく、チラシや広告により店舗を移動する消費者もみられ店舗間競争は過熱気味となっている。

衣料品は、朝夕の冷え込みから実用衣料品やジャケットなどのアウター商品に動きがでてきている。

暖房機器は売れ行き好調で前年を上回っているが、原油高騰の影響から石油ストーブはやや低

調となっている。大型薄型TVは引き続き堅調な動きとなっている。

ホームセンターは、下旬に入り暖房器具や季節の生活関連商品など順調な売れ行きをみせた。

観光

秋の行楽シーズンとウインターシーズンの狭間で例年低調な時期となっている。上旬は晴天が続き気温が高く行楽地は賑わいをみせたが、後半は朝夕の冷え込みから閑散となった。宿泊客は旅館、ホテルにより増加減少区々となっているが総体では前年を割り込んだ模様。

上諏訪の旅館・ホテルの宿泊客は施設により増加減少区々となっており総体では前年を割り込んだ模様。

蓼科・白樺湖・車山方面の宿泊客は区々となっているが全体では低調だった前年と比べると幾分増加している。

下諏訪温泉は増加したところもあるが、総じては前年を割り込んでいる。

諏訪大社の参拝客は 63,928人で、前年比では 8,546人増加した。祝祭日は好天にも恵まれ七五三の参拝客で大変賑わった。

建設業

市町村の11月の発注工事は 650百万円で前年同月比 155百万円減少した。地元企業への県発注工事は 285百万円で、前年同月比 1,125百万円減少した。県・市町村合わせた11月の公共工事の地元企業受注額は、935百万円で前年同月比 1,280百万円減少した。民間工事では、10月の新設住宅着工件数は 193戸で前年同月比 43戸増加した。

17年4月～10月の累計着工戸数は 1,400戸で前年同期の累計着工戸数に比べ 165戸増加している。

建築工事は幾分増加し予定の受注を確保したところもみられるが、土木工事は減少したままで建設業は依然厳しい状況となっている。

雇用

10月の有効求人倍率は、諏訪公共職業安定所 1.24倍、岡谷公共職業安定所 1.32倍で諏訪地域の有効求人倍率は 1.27倍と長野県の 1.00倍を上回っている。諏訪職安、岡谷職安合わせた10月の新規求人（全数）は 1,416人で前月より 293人減少した。サービス業からの求人は増加傾向が続いている。製造業からの新規求人は前月より幾分減少しており当面の受注増加対応として経験者など即戦力を求める企業が多い。

諏訪地域の有効求人倍率は平成15年10月以降 25ヶ月連続して1倍を上回っている。

当金庫から見た需資動向に大きな変化はみられない。

業種別動向

1. 電気機器

- プリント基板 デジタルカメラ、携帯電話、パソコン向けなど受注増加から高水準の生産を続けている企業がみられ全体として受注は増加している。
- コンデンサー フィルムコンデンサーの受注は横這い状況となっている。
- プリンター 下請け企業の受注状況は区々となっているが、部品加工など増加しているところもみられる。
- コンダクター・リレー 受注は安定しており堅調な生産が続いている。

2. 輸送用機械

- 自動車 自動車部品は材料費の値上がりから収益性は厳しいものの、受注は安定しており幾分増加している。
二輪車部品は幾分弱含みとなっている。
- ピストンリング・シリンダーライナー メーカーは順調な生産を続けており下請企業の受注も幾分増加している。
- 船外機 下請企業の受注は幾分減少しているが、高水準の生産が続いている。

3. 一般機械

- 工作機械 自動車関連企業や海外出荷の工作機械は堅調な生産を続けている。
専用機・省力機器 専用機械、省力化機械など産業機械は高水準の生産を続けているところが多い。
- 搬送用機械 デジタル家電などの新規受注に動きがでており、フル稼働の生産が続いている。
- 金型 情報機器や音響機器の金型受注は一部企業に高水準のまま横這い状況のところもみられるが、減少したところもあり区々となっている。
- アルミダイキャスト 自動車部品や電源機部品など高水準の生産を続けているところが見られる。受注状況は区々で総体としては横這い状況となっている。

4. カメラ・レンズ

- デジタルカメラ デジタルカメラの10月の生産台数は742万台で、前月比13.4%、前年同月比13.9%の増となっている。(カメラ映像機器工業会)
10月の国内出荷は63万台、輸出698万台で6ヶ月連続増加している。海外生産が主流となっており地域の下請企業の受注状況は区々となっているが総じては減少している。
- プロジェクター メーカー各社の海外生産比率が高まり下請企業の受注は減少している。
- デジタルミニラボ 機種変更がみられたが引き続き順調な生産状況となっている。

レ ン ズ ガラスレンズの生産は海外が主体となっている。国内のガラスレンズの生産量は減少しており総体でも幾分減少傾向となっている。

5 . 織 維

ニ ッ ト 春物ニットの本格生産時期を迎えているが、全国的に9月から11月の気温が高く、秋物衣料品の動きが幾分低調だったことから、専門店からの発注が遅れ気味となっている。人気の冬型ファッションニットのスポット受注で繁忙のところも一部みられる。
ホールガーメントの受注は堅調となっている。

6 . 食 品

寒 天 品薄のため既存固定客中心の出荷となっている。来期の予約注文も始め生産準備にはいっている。

味 噌 需要期を迎え出荷は幾分増加しており、前年並となっている。

7 . 製 材

 諏訪地域の10月の木造住宅着工件数は 98戸で前月比 20戸減少した。

 合板は都心地域の需要が旺盛で幾分値上がり傾向となっている。米松などアメリカからの輸入材は原油高騰や円安から12月以降の値上がりが見込まれている。

8 . 建 設

公 共 工 事 11月に地元業者が受注した県関係公共工事は、発注機関別では諏訪建設事務所 14件、林道治山工事関係 9件、土地改良工事 4件など合わせて 32件、契約金額 285百万円となっている。17.4月～17.11月の累計契約額は 2,203百万円で前年同期累計比 1,125百万円の減少。市町村発注工事は、建築工事 8件 29百万円、土木工事・下水道工事など 86件 554百万円、その他工事 14件 67百万円で合計 108件 650百万円で前年11月に比べ 155百万円減少した。

民 間 工 事 10月の新設住宅着工件数は 193戸（貸家を含む）で前年10月比 43戸増加した。

 建築工事に動きが見られるが土木工事は低調に推移している。

9. 商業

諏訪地方の11月の天候は晴天の日が多かった。中旬から下旬にかけて冬型の気圧配置となり冷え込んだことから衣料品、電気製品など季節商品に動きがみられた。食料品は店舗間競争が激しく家庭の支出が前月から食料品に流れ、煽りを受け日常雑貨など影響を受けた商品もみられる。

衣 料 朝夕の冷え込みから実用衣料品やジャケットなどのアウター商品や紳士服など前年を上回る売れ行きであった。

食 料 品 熾烈な店舗間競争が続キチラシ、広告により消費者が店舗を移動しており、来店客数は店舗により区々となっている。生鮮三品はチラシ、広告により商品価格が下がっており地域全体としての数量は増えた模様。加工食品は値引き販売が行われ売れ行きを伸ばしているものの、客単価は低くなっている。

電 気 機 器 暖房機器は前年を大幅に上回る売れ行きをみせ、薄型大型TVは堅調な売れ行きをみせた。原油高騰の影響から石油ストーブの売れ行きは幾分低調となっている。

自 動 車 諏訪・岡谷を合わせた11月の車庫証明件数（軽自動車除く）は1,284台で、前月比19台増加したが前年同月比では0.8%の減少となっている。軽自動車は引き続き売り上げを伸ばしており、普通乗用車は新車に動きがみられたが全体としては横這いとなりガソリンの値上がりの影響もみられる。

ホームセンター 下旬に入り暖房器具や住関連商品に動きが出ている。

10. 観光

秋の観光シーズンとウインターシーズンの狭間で例年低調な時期となっている。晴天が続いた上旬は日中の気温も上がり行楽地は賑わいをみせたが、後半は朝夕の冷え込みがすすみ閑散となった。宿泊客は施設により増加減少区々となっているが全体では前年を割り込んだ模様。上旬の祝祭日の諏訪大社は七五三の参拝客などで大変賑わった。

上 諏 訪 温 泉 安価な団体客を敬遠するホテルなどもみられ、宿泊客は旅館・ホテルにより増加減少区々となり、総体では前年を割り込んだ模様。インターネットを利用した宿泊客が増えており、1部屋当たりの宿泊客数は2人～3人と少人数になっていることから客室稼働率を高めたところが多くなっている。

蓼科・白樺湖・車山 上旬は日帰り客の入り込みが多く賑わいをみせたが、宿泊客は施設により区々となっている。低調だった前年比では昨年を上回ったところも見られたが総体では前年を下回った模様。

下 諏 訪 温 泉 七五三の会食などで賑わったところもみられたが、宿泊客は前年を下回ったところが多い。

諏 訪 大 社 七五三の参拝客で賑わった。上社・下社の参拝客数は63,928人で前年同月より8,546人増加した。

最近の長野県経済の動向

(2005年12月14日) 日本銀行松本支店

2005年10月の主要経済統計および企業ヒアリングを中心とした月例調査に加え、
第127回全国企業短期経済観測調査(長野県分<別途公表>)の結果も併せて取りまとめ。

長野県経済は、足踏み状態から脱し、緩やかに回復している。

足もとの最終需要の動向をみると、**設備投資**は、05年度下期にかけて、前年を大幅に上回る計画となっており、引き続き増加している。**公共投資**は、市町村・国発注分が増加し、前年を上回った。**輸出**は、05年度上期が上方修正された後、下期は前年を上回る計画となっているなど、総じて持ち直している。また、**住宅投資**は、月々の振れが大きいものの、均してみれば、貸家、分譲住宅を中心に底堅い動きとなっているほか、**個人消費**は、自動車販売など一部に弱めの動きもみられているが、食料品や家電製品を中心に総じてみれば底堅く推移している。

以上のような最終需要のもとで、生産は、自動車・産業機械向けの生産が高水準を維持しているほか、IT関連財の生産も緩やかに回復している。また、企業収益は、製造業、非製造業とも、上期が大幅に上方修正され、年度通期でも近年では高水準の利益を計上する計画となっている。こうした中、雇用面をみると、転職機会の拡大を眺めて求職者数が増加した一方、求人数が増加したことから、有効求人倍率は2ヶ月連続で1.00倍を維持した。一方、所得面は、所定内給与が引き続き増加するなど、全体としては持ち直し傾向にある。

個別業界の動向

(生産)

半導体関連では、半導体素子の生産が、デジタル家電向けを中心に高水準の生産を続けているほか、シリコンウエハーも生産水準を引き上げている。また、リードフレームの生産は、底入れしている。

電子部品では、抵抗器の生産は、携帯電話やAV機器向けを中心に回復している。また、モーターの生産も、海外メーカーとの価格競争や海外への生産移管の影響といった構造問題を抱えつつも、月々の振れを伴いながら海外向けを中心に回復の動きがみられているほか、コンデンサの生産も、海外向けの復調から持ち直している。

情報機器では、プリンターは、フォト機能を充実させた製品の販売好調を背景に、堅調な生産を続けている。また、県内生産分のパソコン(ノートブック型)は、新製品の販売堅調を受けて生産水準を若干引き上げている。一方、デジタルカメラは、販売の伸び悩みを受けて、生産は低調に推移している。

自動車部品は、新型車投入効果の持続から、国内向けが総じて堅調に推移しているほか、海外向けも増加基調を維持していることから、高水準の生産を続けている。

工作機械は、国内外の自動車向けや海外の情報関連機器向けが堅調に推移しているほか、国内の情報関連機器向けも緩やかに回復していることから、高目の生産水準を維持している。

味噌の出荷は総じて横ばいで推移している。

(個人消費)

県内大型小売店(百貨店、スーパー)売上高(当店調べ<店舗調整前>)をみると、百貨店の売上げは、ブランド・テナントの新規出店効果等から引き続き前年を上回った。一方、スーパーは、ウエイトの高い食料品が野菜・果物価格の下落などから前年割れとなったほか、衣料品も気温が高目で推移する中で、冬物衣料の出足が鈍かったことから、前年を下回った。

家電販売は、デジタル家電や白物家電が好調を維持しているほか、パソコンもテレビ視聴機能付き製品を主体に順調に推移していることから、全体では堅調な販売が続いている。

自動車販売をみると、軽四輪は新型車投入効果等により引き続き全年を上回ったが、ウエイトの高い小型車および普通車が減少したことから、全体では3ヶ月連続の前年割れとなった。

(建設)

県内建設関連企業における**民間工事新規受注額**は、県外業者との競争が続いているものの、大型マンション建設案件がみられるなど、幾分持ち直している。

公共工事請負額は、市町村・県発注分が増加し、前年を上回った。**住宅着工戸数**は、貸家や分譲住宅の着工がこのところ市部を中心に増加しており、均してみれば底堅い動きとなっている。